

勝「編に収めた「豊後日田釜淵」と題した作品を模写したものであろうという。森山氏はこの絵を仔細点検し、釜淵の中州の岩盤に小さな建物が見えることに注目し、現地には、この建物にあたるかと見られる建物の柱穴があると報告している。この景勝の地には、淡窓のいう「行厨」、つまり飲食をするに適した四阿のような建物があったのであろう。

なお、このあたりには釜淵のほか猿淵、鰻淵、鰐淵などの淵がある。

琴平神社と普門寺 (図1・44、46)

淡窓はこの釜淵から近くにある鬼城金毘羅宮、普門寺に足を延ばした。金毘羅社は釜淵の南の丘陵上にあり、琴平(金刀毘羅)神社として今日も厚く尊崇されている。普門寺については、いまは荒廃した庭園の中に小堂が残っているが、かつては本尊とともに開山の笑巖和尚の頂相(市有文)が安置されていた。背面下部の墨書によれば応永十六年(一四〇九)、和尚の三十三回忌法要に際して造立したと記される。その東方に「王様の御墓」と称する二基の塔があって征西將軍懷親王のお墓だと伝える。

石井神社 (図1・51)

石井神社は日田国造止波足尼命を祭神とする、日田では大原八幡宮に次



琴平神社 (鬼城金毘羅庵)



普門寺跡

ぐ由緒のある神社である。石井の地は古代の石井郷、石井駅が置かれたところで、特に筑後方面との交通の要衝にもあった。この神社の宝物として中広銅鉾(市有形文化財指定)が保存されている。

小畑神社・護願寺 (図1・53、55)

この地域では石井神社の南にある小畑神社、松尾神社、さらには護願寺、上野の鏡坂、穴平観音などにしばしば出向いている。

・天保六年(一八三五)

九月六日。放学シテ山ニ遊ブ。予、謙

吉及ヒ諸生数輩ト限川ヲ渡リ、石井ニ至リ、松尾ノ祠ニ賽シ、ソレヨリ小島ノ大神宮ニ謁シ、護願寺ニ至ル。来真詣生ヲ引イテ、此所ニ至ツテ相待テリ。見順、関恵亦来レリ。護願寺ニテ行厨ヲ開キ、詩ヲ賦ス。予力詩ニ曰ク。

薬王禪寺我曾詣。路出限川西又南。

古碣欲消猶可読。残僧雖老也能談。

山分巒巘姿非一。水抱村墟派是三。

日暮归来却惆悵。廻看孤鶻立高楠。

帰路、鏡坂ヲ過キ、森成策力建ツル所ノ碑ヲ見ル。

・天保十一年(一八四〇)

四月一六日。行イテ江南松尾祠ニ謁ス。同行スルモノ、左膳、渙度、範治、魚沖。元登、伸平、ソノ外、家人婢僕ヲ合シテ凡十二人ナリ。余、伸平、左膳、元登ト往イテ祠ニ謁ス。其ノ他ハ皆石井大明神ノ祠ニ於テ相待テリ。予力輩、帰リ来ツテ同シク行厨ヲ開ク。已ニシテ家ニ帰ツテ小酌シ、又伸平力家ニ至リテ飲メリ。此日、日長ウシテ年ノ如シ。但シ喧熱ニ過キタリ。



石井神社